

暖地園芸センターの試験研究課題

本県では、冬季温暖な気象を活かして野菜・花きの集約的な施設園芸が展開されてきました。当センターは、その施設園芸が最も盛んな日高地域に位置し、収益性の高い園芸振興をめざして、暖地特産の野菜・花きのオリジナル品種の育成や低コスト・多収・安定生産技術、効率的な種苗生産技術などの開発、研究を行っています。

昨年は、スターチスの県オリジナル品種としては初となるピンク色の「紀州ファインピンク」をはじめ、青色でボリュームのある「紀州ファインブルー」、紫色で収益性の高い「紀州ファインパープル」の3品種を育成したところです。

今後も、農家の皆様の所得向上につながるオリジナル品種の育成や新たな技術開発にスピード感を持って取り組んで参ります。

【現在取り組んでいる主な試験研究】

1. 特産花き・野菜のオリジナル品種育成

実エンドウの主要品種である「きしゅうすい」は、草丈が高く作業性が悪いため、交配育種やイオンビーム育種により短節間品種を育成します。

2. スターチスの低コスト新育苗技術開発

スターチスは、花芽促進にクーラー育苗を必要とし、種苗経費が問題となっています。そこで、クーラー育苗期間を短縮することにより育苗の低コスト化を図ります。

3. エンドウの長期安定増収技術の開発

エンドウは、栽培後期の草勢低下や着莢数が不安定などの問題があり、安定した収量を得るための栽培技術が求められています。そこで、同化養分の動態等の生理生態を明らかにし、長期間安定した収量が得られる増収栽培技術を開発します。

4. 高糖度ミニトマトの安定生産技術の開発

高糖度ブランドミニトマトの品種「キャロル7」は、葉かび病や裂果の発生が多いため、高糖度完熟出荷に適した葉かび病耐病性品種の選定と安定生産技術を開発します。

5. 施設野菜花きの省エネルギー技術開発

本県は野菜花きの施設園芸が盛んですが、燃油価格の高騰が農家の経営を圧迫しているため、施設の保温性アップおよび加温方法の改善により暖房経費節減を図ります。

(所長 森下年起)

和歌山県農業試験場 暖地園芸センターニュース No.47

平成28年1月発行

編集・発行 和歌山県農業試験場暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

TEL:0738-23-4005 FAX:0738-22-6903

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/003/003.htm>

印刷所 有限会社 隆文社印刷所

(この印刷物は再生紙を使用しております)